

「共生」～すべての子供たちの自立に向けた太田市のサポート～

地域の
特色ある
活動

群馬県太田市教育委員会

1 はじめに

太田市は、群馬県南東部に位置し、人口約22万人を有しています。自動車産業を中心とした全国有数の工業都市である一方、利根川や渡良瀬川の恵みと金山・八王子丘陵の自然豊かなまちです。東京（浅草）から延びる東武伊勢崎線のほか、北関東自動車道によって関越・東北・常磐の各自動車道へつながるなど交通アクセスも良好で、群馬県南東部地域の中核都市として発展を続けています。

太田市教育大綱では、第2次太田市総合計画に掲げられた基本理念の一つである「教育文化の向上」を推進するため、高い知性、豊かな情操と徳性、優れた創造性とたくましい意志を備えた、心身ともに健康で規律ある人間の育成、さらには歴史や伝統を守り、文化が育まれるまちづくりを目指しています。

2 母語によるサポート

太田市では、平成16年より外国人児童生徒の学習・学校生活適応支援及び保護者への通訳・翻訳等を担うために、日本語と母語（ポルトガル語等）に堪能なバイリンガル教員・日本語指導員を市独自で任用し、学校等に配置してきました。現在は教員免許を持つバイリンガル教員6名と母語でサポートのできる日本語指導員21名が、学校や初期指導教室で外国人児童生徒の指導・支援をしています。対応している言語は、ポルトガル語・スペイン語・タガログ語・ベトナム語・中国語・英語の6か国語です。

3 小学校就学時から高校進学までの外国人児童生徒のための4つのサポート体制

(1) 小学校就学前のサポート

毎年9月～10月、就学時健診に係る通訳サポートを実施しています。就学時健診の必要性について、バイリンガル教員・日本語指導員が電話連絡や家庭訪問を行い保護者に伝え、受診を促します。また就学時健診当日には、児童や保護者に付き添って母語でサポートします。さらに、毎年1～2月の土曜日（全5回）に「プレスクール」を開催し、新入学児童を対象に、学校適応をサポートするための授業を行います。保護者には日本の教育制度等を説明したり、学校生活の様子を映像で見せたりすることによって、日本の学校に対する理解を深めてもらいます。

(2) 編入時のサポート

海外から来たばかりの児童生徒やブラジル人学校に通っていた児童生徒は、ほとんどの場合、全く日本語が話せません。そのような「日本語ゼロ」の児童生徒が、日本の学校に編入する前に、基礎的な日本語と日本の学校生活について学習できるよう、「初期指導教室（プレクラス）」を実施しています。40日間のカリキュラムによる指導を行い、日本の学校に通う準備をします。具体的には、ひらがな・カタカナ・小学校2年生までの漢字の学習、学校生活で必要な日常会話の練習、朝の会や掃除の体験等を行います。プレクラスでの学習によって、日本の学校文化を理解

し、ある程度日本語でやり取りができるようになってから、スムーズに学校に編入しています。また、保護者にも保護者会やガイダンスを行い、日本の学校について理解を進めた上で、安心して編入できるようにしています。

(3) 学校生活でのサポート

ブロック別集中校システムを実施し、複数指導者による TT や母語によるサポート体制を取り入れながら、個に応じたきめ細かな指導を行っています。具体的には、太田市内を 8 ブロックに分け、小学校 10 校・中学校 5 校を集中校とし、「国際教室」を設置しています。

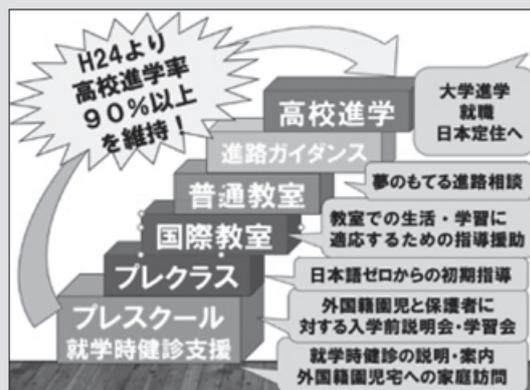
集中校では、国際教室担当教員、バイリンガル教員、日本語指導員の三者が協力して、国際教室で行う取り出し指導、普通教室で行う入り込み指導（TT 指導）等により指導にあたっています。国際教室担当教員は、外国人児童生徒数に応じて、1～3 名配置（計 22 名配置）しています。国際教室の目標は、普通教室での生活や学習に適応するために必要な指導・支援を行うことであり、①生活言語能力・学習言語能力の指導、②学級担任や他の教職員との連携・情報共有、③家庭との連携、④外部機関・地域との連携の 4 つを重点項目としています。

外国人児童生徒にとって、国際教室は安心できる心の居場所になっています。そして、段階を踏みながら、徐々に普通教室で過ごす時間を伸ばしていき、最終的には国際教室を「卒業」し、普通教室だけで学習するようになります。国際教室のない学校には、日本語指導員が巡回指導を行い、学習面や心理面でのサポートを行っています。

(4) 高校入学に向けたサポート

毎年 6 月に、外国人児童生徒対象の「多言語（6 か国語）による高校進路ガイダンス」を行っています。ガイダンスでは、外国籍の高校生、大学生、社会人による体験談紹介及び入試システム・高校生活についての説明等を行います。太田市近隣 12 校の高校に依頼し、高校ごとのブースで個別に質疑応答でき

るようにしています。バイリンガル教員・日本語指導員が言語ごとのグループに寄り添い、同時通訳します。入学試験・授業料・奨学金・通学方法・資格取得等、個々が知りたい内容について、直接高校の先生に質問することができ、生徒本人だけでなく保護者も前向きに高校進学を考えるきっかけになっており、近年、外国籍の生徒の高校進学率も高水準を維持しています。



太田市の外国人児童生徒教育におけるイメージ図

4 おわりに

「太田金山 子育て 呑龍（どんりゅう）」
これは、上毛カルタの「お」の札です。大光院を建立した呑龍上人は、江戸時代、貧しい子供を手厚く保護したことから、「子育て呑龍」と呼ばれていました。

太田に在住する子供は、すべて太田の宝です。国籍に関係なく、すべての子供たちが自分の力で生きていく力を身に付け、やがては日本を支える大切な人材となるよう、育てていきます。



教育長
恩田 由之